

栗原公園とスーパー公園

12月議会でも栗原公園の問題を取り上げました。

石神には通称「スーパー公園」があります。この公園は僕が五中、六中で教師をしていた時代に中学生の子ども達と一緒にサッカーや野球をやった場所でもあります。(場所は少し移動しましたが)

今もスーパー公園は子ども達に大人気で、毎日大勢の子ども達がボール遊びをしています。ところが、栗原公園はスーパー公園の3倍の面積がありながら、ボール遊びを禁止されているので、小中学生の姿が殆ど見られません。幼児のボール遊びとお年寄りのゲートボールは許可されていますが、子ども達はボール遊びができないのです。お父さんと小学生のキャッチボールも禁止されています。

川崎市では”公園は誰もが他人の共同使用を妨げない限度で、その用法に従い、自由に使用することができるという自由利用の原則”を基に、地域住民で話し合いをしてルールを決めるように提案しています。川崎市の公園では危険のないようなボール遊びは許されているのです。公園はお年寄りだけのものではありません。危険だというのなら、ネットだけでなく、時間で仕切れればいいんです。ゲートボールは小中学生が学校に行っている間にやればいい。時間で区切れれば子ども達も大人もワンコだって、安心して遊べる空間ができます。

下の写真は石神「スーパー公園」です。子ども達だけではなく、大人も体を動かしています。こういう公園を増やす為に、これからも議会で自分のアイデアを提案していきたいと思っています。



2019年12月31日発行



石神井高校のミニ同窓会です。15歳で出会った仲間達が50年経ってもこうして集まることに幸せを感じた3時間でした。みんな、ありがとうね!!

たかやんのプロフィール



1954年、港区青山生まれ。

本名 たかむらともや

新宿区立西戸山小中学校卒。

中学1年からテニスをはじめ、石神井高、北大でテニスに燃える。大学3年、突然「教師」を目指しはじめる。教職を取って

なかったのが、単位を取るのが絶望的なくらい大変だった。奇跡的に合格し、昭和52年4月新設校新座五中に赴任。五中・六中・二中で21年間担任を続け、理科・数学・国語・英語・体育などを教える。安倍自民のマヌケな経済政策に頭にきている。

日本は緊縮財政では益々経済力を失うから、MMT(現代貨幣理論)でデフレ脱却すべきだと考える。議会では木村俊彦と「市民と語る会」を結成。

石神3丁目で個別・集団対応の「たかやん塾」で毎日、中高生と共に学んでいる。

趣味はテニス、音楽、読書、川掃除。

毎月、7つの駅、8か所(ひばりが丘、東久留米、保谷、新座、志木、清瀬、朝霞台)で駅立ちをしながら、令和の山本太郎を勝手に応援している。

写真は小樽商大の田中俊允。大学時代、道内で最強のライバルでした。今は超-っ仲よし!!。(笑)

③ 市長公用車の出動先

12月議会では「市長公用車の出動先」を資料要求しました。市長車(エステイマ)に係る経費は年間901万円ですが、平成31年1月の資料では行き先の大半が飲食店で、これにはビックリしました。

その一方で市内小中学校の教職員の駐車料金は489人の先生から年間931万円も徴収しています。財政難だからという理由で条例に基づいて徴収しているという答弁が返ってきましたが、教職員の車は100%公務で学校に駐車するのですから、感覚がズレているとしか言いようがありません。

先生達は埼玉県の職員なので、「新座市に行くと年間18000円も駐車料金取られるから行きたくないね。」という話になるのは当たり前です。安倍政権により、実質賃金がこの20年間で13%下がっています。教員も例外ではありません。20年前の給料の方が今より高いなんて、信じられません。

多忙な先生達の待遇を良くすることは、新座市の「学力向上」に欠かせないことだと思うのです。

市長達の公用車はタクシーで十分対応できるでしょう。「財政難」と言うのなら、まず自ら削れるところを削らなければ、市民は納得しません。

弱い立場の人への補助金をカットしているのに、公用車で飲食店に何十回も出動することに僕は疑問を感じているのです。

③ 黒目川の掃除仲間に感謝！

この1年間、暑い日も寒い日も一緒に黒目川を掃除してくれた仲間に感謝感謝です。僕の隣の栄治にもその隣の直弘にも感謝です。特に右端の文夫はずっと川の中に入って、黙々とゴミを拾ってくれました。このレギュラーメンバーのお陰で、この1年間頑張れました。みんな、ありがとうね！！



③ さよなら俊さん



僕の最強の相棒だった俊さんが今期限りで引退することを表明しました。

8年間、二人三脚のように力を合わせてきた僕としては本当にショックな出来事でしたが、俊さんの意志は固く……そんな俊さんと、俊さんを応援に来てくれた富永さんとの写真です。この日の傍聴は富永さんをいれて50人。若い学生さん達も大勢来てくれて、議場は熱気に包まれました。



俊さんの最後の質問はやはり「地域福祉」のことでした。地域福祉の拠点の考え方を市長に求める俊さん。地域福祉には地域によって温度差があること、そして市民のやる気が一番大切であること。住民の主体的な取り組みが一番大事ではないのかと訴える俊さんに対して、「住民の熱意、発意を大切にしていきたい」と並木市長は答弁しました。その答弁を8年間、ずっと待っていた俊さん。地域福祉は上から押し付けるものではなく、地域の活動を行政が下から支えるものだとして訴えてきたことに対する答えがやっと出た瞬間でした。上の写真は議会が終わった後、傍聴席に残った学生たちに話をする俊さんです。みんないい顔をしていました。

読み終わりましたら、お知り合いの方にさしあげてください m (_) m